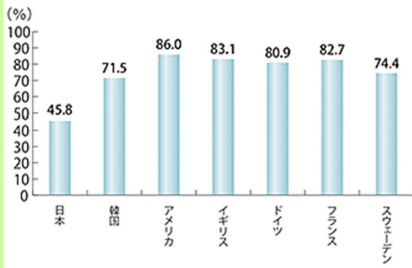
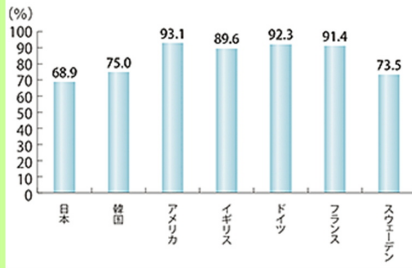


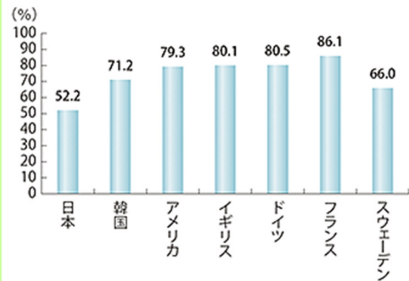
図表1 自分自身に満足している



図表2 自分には長所がある



図表3 うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む



「生きづらさ」打破の力は 自由な異年齢集団の生活から

アルプス子ども会

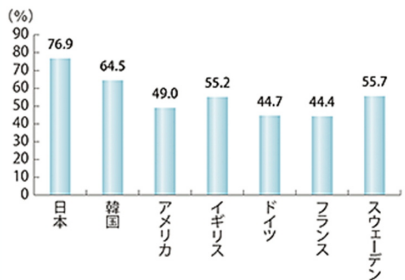
日本の青少年の自己肯定観や将来への希望が、世界でも際立って低いことは、内閣府の国際比較調査で端的に示されました。親は我が子のためと思いつつも幼少期から過干渉を続け、失敗を許さず、全ての子どもが本来持っている力を無自覚にいつまでも奪ってしまいがちなことが、その主因の一つではないかと私は考えています。

「子どもはいろいろな友だちや生き物と遊び戯れながら、喧嘩しぶつかりながら、人としての優しさや、思い切って意見を言う勢いや、ぐっと我慢する強さなど、さまざまなことを学んで自分のものにしていく。そのためには、なにより友だちとの時間が必要なのだ。」桜井智恵子著『子どもの声を社会へ』より

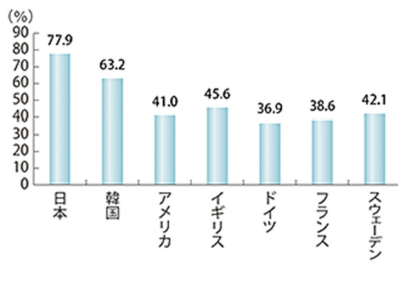
親御さんご自身にも同様の体験があると思います。あつと言う間に大きくなる前に、家庭や学校以外の場をお子さんにお与えください。ご参加をお待ち申し上げます。

図は内閣府「今を生きる若者の意識～国際比較からみえてくるもの～」
<http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26gaiyou/tokushu.html> より

図表4 つまらない、やる気が出ないと感じたこと



図表5 ゆううつだと感じたこと



図表8 将来への希望

